

第3回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見

(平成29年3月24日(金)開催)

【平和資料館の展示内容・展示方法】

(資料の考証)

- ・これから作ろうとする施設で一番問題になるのは、戦争を知らない人が知らない戦争を知らない人に伝える施設になる。聞いた話を知ったかぶりして伝える姿勢ではいけない。そのため、資料に対する向き合い方が大切であり、きちんと考証して、事実を伝えることが大事だ。
- ・展示はコンセプトをしっかり守っていかなければならない。資料を考証し、ストーリーにまとめていく必要がある。
- ・米国公文書館の調査は資料の検証は難しく、長期にわたって学芸員が必要。

(資料の収集)

- ・戦後70年以上が経過し、資料の収集は難しくなっている。広報を行い、市民から寄贈してもらおう。また、外国の公文書館での資料収集を平行して行う等、地道な取り組みが必要である。
- ・今後、個人の日記や手記等も収集できると思う。しかし、当時のことを思い出して今、書かれた絵等、資料をどこまで集めるかは十分に検討が必要。

(展示資料)

- ・出征兵士や軍馬を送った写真が無いかと思う。門司港だけでなく、各駅から出征は行われた。そのような資料も展示して欲しい。
- ・小倉に資料館を作るには、“なぜ、小倉か”というオリジナルのものが必要。もし、原爆が落ちていたらというシュミレーションや爆撃機の飛行経路のパネルもいいと思うが、原爆投下目標が小倉だったという資料を見たこと無い。そのような資料がもしあれば、展示して欲しい。
- ・体当たり勇士のような“まちの戦争の歴史”は北九州市ならではと思う。各区にもこのような歴史はあると思うので、展示に加えてもいいのではないかな。

(展示方法)

- ・実物をただ置いているのではなく、写真等で当時の様子等を紹介し、来館者が考えるきっかけとなるような展示が必要。何も知らない世代からすると、当時の様子を知ることで自分のことのように受け入れやすくなる。
- ・分かりやすい展示のためには解説が必要。年配の人は資料を見ただけで、それが何か分かるが、若い人には解説が必要。
- ・プロジェクションマッピングは分かりやすいが、アミューズメント施設ではないので、演出が過多にならないようにする必要がある。
- ・プロジェクションマッピングもいいが、実際に手にとって触れる、体験することによって深く記憶に残るようなものも必要。

【建設場所について】

- ・戦争は悲惨であり、平和を維持していくことが大事である。このことを伝えるためにも、資料館はぜひ作って欲しいと考えている。
- ・資料館は鎮魂の想いが感じられる施設であって欲しい。勝山公園内の候補地2ヶ所を見たが、中央図書館横のジョギングコースのところは少し賑やか過ぎる。また、ジョギングコースとして定着しているところを塞いでまで作ることはまではしなくてもいいのではないか。雑木林のところは木々に囲まれて静かな場所であり、相応しい。
- ・展示物も大事だが、施設の周りや外観も大事。勝山公園の雑木林のところは建物が無い。鎮魂の想いを抱かせるものは雑木林のところだったらできる。
- ・埋蔵文化財センターの活用については、埋蔵文化財センターは駐車場が無く、また駅から遠い。資料館が北九州市にある意味を考えると、原爆投下予定地であった勝山公園内の雑木林での建設が望ましい。

【施設の機能について】

- ・資料館の機能として、展示機能、資料を考証するための研究機能が必要。また、戦争を知る世代と知らない世代との交流、長崎との交流等、交流機能も必要。

第4回懇話会 市民団体等へのヒアリングでの主な意見

(平成29年4月18日(火)開催)

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会での議論の参考にするため、以下のとおり、市民団体等へのヒアリングを行った。

1 ヒアリング団体(2団体)

- ・北九州平和資料館をつくる会
- ・WILL(西南女学院大学)

※当初、北九州市自治会総連合会も予定していたが、急遽欠席となったが、事前に意見を聴取していたため、意見を紹介した。

2 主な意見

【平和資料館の必要性】

- ・資料館に期待している。日本は戦争に向かって進んでいた時代があった。戦争の結果だけでなく、戦争に至る経緯も展示して欲しいと思う。

(北九州平和資料館をつくる会)

- ・歴史を知るため、情報をネットから得ることが多い。貴重な話を聞くことや資料を見る機会が少ない。資料を実際に見て、平和について考えることができる資料館は必要。

(西南女学院大学「WILL」)

- ・戦後の食糧難の時代があったこと等、北九州にもこのような歴史があったことを伝えるためには資料館は必要。

(北九州市自治会総連合会)

【平和資料館のコンセプト、展示内容等】

- ・懇話会で意見があったように、ここでしか見ることができないものを展示することは賛成である。また、五感で感じる展示は大切。私たちの運営する資料館には展示ケースは無い。来館者に当時の教科書や焼夷弾等、実物の資料に触れてほしいと考えている。

(北九州平和資料館をつくる会)

- ・長崎の原爆資料館を見学したことがあった。文字より写真の方が記憶に残った。資料館では文字情報よりイラストや写真の展示をして欲しい。

(西南女学院大学「WILL」)

【平和資料館の建設場所】

- ・北九州市は五市が合併してできたので、旧五市にはそれぞれ戦争の関わりがあったが、資料館は交通の便が良いところがいい。(北九州平和資料館をつくる会)

- ・勝山公園の一角がよいと思う。近くには図書館、文学館があり、コンパクトに市の歴史を知ることができる。

(西南女学院大学「WILL」)

- ・多くの方に来てもらうためには、交通の便が良いところが良い。

(北九州市自治会総連合会)

【その他、平和資料館への意見】

- ・北九州市を知ってもらうために、資料館を観光ツアーに組み込むことも必要ではないか。工場夜景等も含んだ北九州らしいものがアピールできる。

(西南女学院大学「WILL」)

- ・私たちの運営する資料館では、平和の対極にある戦争をしっかり学ぶ。日本は戦争をしてはならないという姿勢で資料を展示している。

(北九州平和資料館をつくる会)

(仮称) 平和資料館のあり方について (案)

(懇話会まとめ)

1 (仮称) 平和資料館のコンセプトについて

(1) 建設の趣旨

当時の北九州地域は、兵器を製造した陸軍小倉造兵廠、軍需資材の製造を担った八幡製鐵所、海上輸送の要地となった門司港があり、戦争との関わりが深かった。

そのため、日本で初めて米国の空襲を受けたことや小倉が長崎原爆の投下予定地であり、実際に原爆を積んだ爆撃機が飛行したという北九州市特有の歴史が生まれた。

北九州市民はこのような戦争の歴史を重く受け止め、後世に戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎ、平和のための歩みを続けていく必要がある。

そこで、北九州市と先の大戦との関わりの歴史を紐解き、戦中・戦後における市民の生活の苦労や多くの命が失われた悲劇等を市民に伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう、市民一人ひとりが平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする「(仮称) 平和資料館」を建設する。

(2) コンセプト

- 北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設
- 平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

(3) (仮称) 平和資料館の機能

① 展示機能

歴史資料等を活用した展示を行い、北九州市の戦争に関する歴史の事実を伝える。

② 保存機能

市民から寄贈された生活用品や米国国立公文書館から収集した写真、映像等の資料の考証を進め、戦争の事実を伝える資料を保存する。

③ 学習機能

来館者がより、平和について考える機会を確保するため、必要な書籍等を提供する場を設ける。

④ 交流機能

来館者が実際に戦争を体験された人の思いや願いに触れる機会を提供する。また、平和について共に考えることに繋がるよう他都市の市民等との交流の機会を提供する。

⑤ 研究機能

北九州市の戦争に関する歴史や資料について基礎的・専門な調査研究を行う。

2 (仮称) 平和資料館の主な展示内容

(1) 北九州市における悲惨な戦争の事実を伝える

市民から寄せられた空襲に関する資料や米国国立公文書館が所蔵している資料等を基に、北九州市における悲惨な戦争の事実を伝える展示を行う。

また、長崎市が所蔵する原爆に関する資料を借り受け、被爆の実情等を伝える展示を行う。

さらに、幕末・明治期から軍都と呼ばれるに到った経緯、開戦前の日本の国際的な立場等、北九州市を取り巻く歴史的背景についても紹介する。

(2) 戦争が引き起こした市民の苦労を伝える

市民から寄贈を受けた戦時下の市民の暮らしが分かる資料等を活用し、戦中・戦後の市民の生活の苦労を紹介する。特に来館する子どもたちが当時の生活を感じることができるよう、子どもたちの日常生活等が分かる資料等を展示する。

3 (仮称) 平和資料館の主な展示方法

市民から寄贈された資料等を展示するとともに、来館する子どもたちの理解をより深めるため、展示ストーリー等を構築する。

展示方法は、音響や映像技術を駆使し、視覚等に訴えるとともに、手にとって触れる等、五感を通じて体験できる展示を行う。

また、展示資料の時代背景や市民の関わり等を分かりやすく紹介し、来館者が深く当時の状況等を実感できる展示を行う。

4 (仮称) 平和資料館の建設場所

交通の結節点であり、来館者の利便性が高い小倉の中で、小倉造兵廠跡地、長崎原爆の投下目標地であった歴史的背景から勝山公園内に建設する。

具体的な場所については、勝山公園の賑わいから離れていることや市民の公園での活動の妨げにならないこと等、公園の機能が損なわれる恐れが少ない駐車場付近（中央図書館の横）が相応しい。

第 4 回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見

(平成 29 年 4 月 18 日 (火) 開催)

【平和資料館の展示内容・展示方法】

(展示内容)

- ・戦争体験や戦後の苦労等について、語り部の肉声や書かれた文字等、体験者の生の声を大切にすべきだ。
- ・資料館の特色として、映像だけでなく、戦争を体験された方を招いて講演を行うことも必要だ。

(展示方法)

- ・音響や映像後術は発達しており、見て、聞いて分かるという展示が可能なら、子どもたちにも分かるような方法を採用して欲しい。
- ・館内の案内はロボットを使う等、北九州市にある企業の技術を活用することも検討できるのではないか。

(学びに繋がる工夫)

- ・勝山公園内での設置ならば、近くには図書館等がある。関連資料が図書館にもあるといったお知らせをする等、展示については学びに役立つ工夫して欲しい。
- ・周辺の施設を連携し、常設展示に加えて特別展示を行う等、夏休みに子どもが平和学習で施設を“はしご”できるような展示も必要だ。
- ・東京の昭和館では、子どもたちが平和学習を行うという前提で作られており、子どもたちは映像を見た後、ワークシートに記入し、記憶に留めるということを行っている。展示を見て、感じて、終わりではなく、学びを深める工夫が必要だ。

【建設場所について】

- ・中央図書館横の駐車場付近は大通りに面している。わっしょい百万夏祭りがある時は、物販等を行なっており騒がしいのではないか。近くの遊具がある公園のところが良いのでは。
- ・わっしょい百万夏祭りは年一回。であり、駐車場や雑木林の所では物販等は行わないので、問題はないと思う。
- ・わっしょい百万夏まつりでは時間帯によって公園への入場が制限されることはあるが、資料館としての利用には影響は無い。
- ・事務局が示したイメージ図では、中央図書館に併設する場合、資料館で図書館のデザインが見えなくなる。また、公園の入り口から見ると、圧迫感がある。
- ・資料館は今後、北九州市の追悼の中心となる可能性がある。建設場所は追悼に相応しい閑静な場所ということを明らかにすべきではないか。
- ・気軽に行けるということも大事。勝山公園ならばジョギングした後に資料館に行くこともできる等、何回も行くことができる。

【まとめ(案)全体】

- ・まとめの文言については学術的に正しい表現であるかどうか確認して欲しい。
- ・文言の使い方等は専門家に見てもらったほうが良い。
- ・なぜ、小倉に資料館を設置するのかという原点に戻れば、展示内容や建設場所が明確になる。これらが繋がるようなまとめにして欲しい。